

心臓血管外科

○ 心臓血管外科の概要

1. 心臓血管外科の特色

心臓血管外科は外科研修ではサブスペシャリティーの中にはいるが、高度な専門的な知識および技術が求められる分野の一つである。当科は埼玉県全域の循環器疾患診療の中核病院として紹介患者が多く、全国でも最も心臓外科手術数の多い病院の一つとして知られている。当科の特徴の一つは、一般病棟業務以外に心臓外科手術適応決定に必要な心電図や胸部X線写真をはじめ、心臓カテーテル検査、標準心エコー図、経食道心エコー図、心臓核医学などの特殊検査に参加し、データの読み方や診断基準について学ぶことができることである。また、手術実技では、胸骨正中切開ならびに閉胸法、冠動脈バイパス手術に使用する大伏在静脈グラフトの採取法、簡単な末梢血管手術を術者として経験する。また術後のICU管理ではCVPカテーテル、Swan-Ganzカテーテル、動脈針を自ら挿入し、各種血行動態を確実に評価できるようになるとともに、術後の全身管理法やIABPやPCPS、補助人工心臓などの補助循環法を習得する。

2. 診療実績

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
虚血性心疾患	122例	139例	144例	133例	146例	165例	206例	129例
弁膜疾患	112例	115例	165例	180例	219例	205例	165例	237例
胸部大動脈瘤	54例	80例	85例	113例	86例	98例	93例	118例
先天性心疾患	9例	7例	4例	6例	11例	11例	7例	7例
補助人工心臓	2例	2例	8例	2例	7例	13例	10例	11例
ステントグラフト	42例	81例	105例	84例	96例	81例	120例	163例
腹部大動脈瘤	29例	35例	41例	41例	57例	28例	28例	27例
末梢血管	65例	60例	66例	65例	51例	41例	41例	62例
総計	435例	519例	618例	624例	63例	642例	670例	754例

3. 診療・教育スタッフ

新浪 博士（教授）：心臓血管外科全般、補助人工心臓の臨床、心臓移植、先天性心疾患（成人）

井口 篤志（教授）：補助人工心臓の臨床、心臓移植

朝倉 利久（准教授）：心臓血管外科全般、大動脈、末梢血管外科、大動脈ステントグラフト治療

中嶋 博之（准教授）：心臓血管外科全般

上部 一彦（講師）：心臓血管外科全般

菊地千鶴男（講師）：心臓血管外科全般

小池 裕之（講師）：心臓血管外科全般、経カテーテル大動脈弁置換術

田畑美弥子（講師）：心臓血管外科全般、低侵襲心臓外科手術

ほか、助教6名

4. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：新浪 博（診療部長）

臨床研修指導医：井口 篤志、朝倉 利久、小池 裕之、菊地千鶴男、高橋 研

5. 臨床研修プログラムの特色

「新医師臨床研修制度」に掲げられた研修目標のほかに、臨床医として身につけておくべき基本的事項を研修するためのプログラムである。将来、外科専門医、心臓血管外科専門医を目指す研修医にとってはその基礎となる研修プログラムであるが、将来どの診療科を専攻するにしても役に立つ内容から成り立っている。

6. 経験目標・到達目標

一般目標 (G10)

臨床医に必要な基本的な臨床能力を身につけるために、代表的な循環器疾患の診断とその外科的適応、外科的治療の実際を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

1. 心臓外科患者の問診、理学的所見がとれる。
2. 心臓外科患者に必要な検査および治療計画設定ができる。
3. 心電図および胸部X線の読影ができる。
4. 心臓カテーテル検査データを理解し、鑑別診断ができる。
5. 標準心エコー図検査データを理解し、鑑別診断ができる。
6. 心臓核医学検査データを理解し、鑑別診断ができる。
7. 心臓血管外科手術体位の取り方・消毒法ができる。
8. 開胸・閉胸操作の第一助手ができる。
9. 大伏在静脈グラフト採取ができる。
10. 手術創の縫合閉鎖ができる。
11. 上級医師の指導で気管内挿管・抜管ができる。
12. 上級医師の指導で CVP カテーテルが挿入できる。
13. 上級医師の指導で Swan-Ganz カテーテルが挿入できる。
14. 上級医師の指導で IABP や PCPS・補助人工心臓の管理ができる。
15. 上級医師の指導で心肺蘇生法ができる。

研修の方略

病棟は教授以下のスタッフ、助教、研修医、ベッドサイド学生の全てが一つのチームとして臨床にあたる。さらに各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導にあたる。

平日は朝 7 時 30 分からカンファレンスがあり、入院患者、術前や術後の症例検討を行っている。特に火曜日は心臓内科との合同カンファレンスを行い、それぞれの症例に対して、各方面の専門医と討論を行っている。また経カテーテル大動脈弁置換術症例に対するハートチームカンファレンスも適宜行い研修医も参加している。研修医は指導医に対し、治療方針について指導医などの上級医師とも自由に討論できる体制を取っている。特に研修医には担当患者の症例提示が適切にできるように指導している。

研修医には積極的に手術に参加できるように配慮している。心臓外科手術の基本である開胸・閉胸操作の助手ができるように指導している。その他、救急処置の必要なカテーテル類の挿入手技や循環管理も指導している。

到達目標と評価表 (1ヶ月間研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 心臓外科患者の問診、理学的所見がとれる。	()	()
2. 心臓外科患者に必要な検査および治療計画設定ができる。	()	()
3. 心電図および胸部X線の読影ができる。	()	()
4. 心臓カテーテル検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
5. 標準心エコー図検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
6. 心臓核医学検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
7. 心臓血管外科手術体位の取り方・消毒法ができる。	()	()

到達目標と評価表 (2ヶ月目以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 開胸・閉胸操作の第一助手ができる。	()	()
2. 大伏在静脈グラフト採取ができる。	()	()
3. 手術創の縫合閉鎖ができる。	()	()

4. 上級医師の指導で気管内挿管・抜管ができる。	()	()
5. 上級医師の指導で CVP カテーテルが挿入できる。	()	()
6. 上級医師の指導で Swan-Ganz カテーテルが挿入できる。	()	()
7. 上級医師の指導で IABP や PCPS ・補助人工心臓の管理ができる。	()	()
8. 上級医師の指導で心肺蘇生法ができる。	()	()

7. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
7:30	翌週の 手術症例 検討会	内科・外科 合同カンフ ァレンス	翌週の 手術症例 検討会	翌週の 手術症例 検討会	翌週の 手術症例 検討会	
8:00	回診	回診	回診	回診	回診	
8:30	手術	手術	手術	手術	手術	回診
18:00	回診	回診	回診	回診	回診	回診
19:00	リサーチ ミーティング		抄読会			

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター 心臓病センター
 心臓血管外科 菊地 千鶴男 (講師)
 TEL : 042-984-4196